

1 部

学習サポート

各種申込締切について

『試験・スクーリング情報ブック』にてご確認ください。

※2025年度版は通信教育部ホームページからご確認ください。

- ・学年暦→p. 4～5 　・通信教育部カレンダー→p. 15～17
- ・演習・実習科目関連締め切り等　社福→p. 24～27　精保→p. 28～29

2025年4月以降の変更・留意点

●【再掲】東京会場の変更について【再変更】

東京会場は「ビジョンセンター赤坂（永田町）」（千代田区永田町1-11-28）から「ビジョンセンター市ヶ谷」（千代田区九段南4-8-21 山脇ビル2F・3F）など各ビジョンセンターへ変更になります。

【重要・再掲】2025年度4月以降の冊子版の副教材について

『試験・スクーリング情報ブック2024』p. 18他で既報の通り、『レポート課題集A・B・C』『試験・スクーリング情報ブック』『With』は2024年度（2025年3月）をもって冊子版（印刷物）での配付を終了いたしました。各電子版（PDF）を通信教育部ホームページにて閲覧してください。

【重要・再掲】2025年度以降の各種申し込みについて

『With』冊子版の廃止に伴い、科目修了試験、会場スクーリング、各種演習・実習指導科目のお申し込みはWeb上での受付となります。

科目修了試験・会場スクーリングはポータルサイトでのお申込みとなります。

各種演習・実習指導科目につきましては、個別のご案内となります。具体的な方法については『With』各号やポータルサイト等でお知らせいたしますので、ご確認の程お願いいたします。

【再掲】幼保特例講座の延長に伴う対応について

令和6年6月に本特例制度にあたり2030年度までの延長が通知されました。これに伴い、本学における「幼保特例講座」を延長して開講させていただきます。

なお、2030年度に達する前に本学における幼保特例講座を終了する可能性もございますので、受講中の皆さまにおかれましては、お早目の単位修得を行うようお願いします。

2つの「コヒアランス」から レポートへの取り組みを考える

福祉心理学科 准教授

中村 修

タイトルにあるコヒアランス (Coherence) という言葉ですが、初めて聞いたという方も多いかもしれません。一般的には「論理が一貫していること、つじつまがあうこと、まとまりがよいこと」を意味する言葉なのですが、今回はこのコヒアランスに関する2つの心理学領域での扱いを紹介し、そこから皆さんの日々のレポート作成の取り組みにつなげてみようと思います。

まず1つ目は健康心理学領域での扱いです。ストレスに関する心理学的研究の中に「ストレスに強い人」の特徴を明らかにする流れがあり、その中でこのコヒアランスがでてきます。それはアントノフスキイが提唱した健康生成論の主要な概念である「センス・オブ・コヒアランス (Sense of Coherence、SOCと略)」です。

SOCとは何かというと、自分の生きている世界が「首尾一貫している、筋道が通っている、訳が分かる、腑に落ちるという知覚・感覚」(山崎・戸ヶ里・坂野、2019) のことをいいます。そしてSOCは「今の自分が置かれている状況が理解でき（理解可能性）、この先何とかなると思えて（処理可能性）、状況の意味・意義ややりがいを感じられる（有意味感）」という3つの要素からなりたつとされています。例えば自然災害に見舞われたときに「何がおきているのか把握できない、この先何ともならないような気がする、なぜこんなことになったのかわけがわからない」となれば相当につらいですよね。ただそんな状況におかれても、情報や周囲のサポートを手に入れて理解を深め、何から手を付けてみるか決めていき、徐々に意味を見出していくこともあるわけです。

レポート課題でも「何が求められているかわからない、書けるとも思え

ない、書く意味が感じられない」となればやっかいですよね。そんな時には、1冊の本を読んでも理解できないなら別の書籍（例：他の科目的教科書）ではどう書いているか探してみたり、そもそもレポートの書き方の解説書を見てみたり、どこがダメなのか指摘してもらうために再提出覚悟で提出してみたりするなど、「今手元にない情報を増やしてみようとする」ことをおすすめします。そしてレポート作成の意味・意義ですが…もちろん意味のない作業をさせているつもりはないのですが、今回は某有名プロレスラーの言葉をもじって「迷わず書けよ、書けばわかるさ」としておきますね。

次にコヒアランスのもう1つ、認知心理学の中の言語理解／文章理解の領域にて使われるものがあります。冒頭で述べたようにコヒアランスは「論理が一貫している」という意味を持っていることを考えると、「文章の中で論理が一貫していると、文章の理解がしやすい」ことをさすととらえてもいいのですが、今回はもっと細かいレベルの「(文章の) 連接性」と訳す場合のコヒアランスについて紹介します。

この連接性とは、「語句と語句、文と文といったより細分化されたレベルでのつながり」（深谷、1999）をさします。語句と語句、文と文のつながりがよければその文章は理解しやすく、つながりが悪ければ理解しづらいというシンプルな話なのですが、では何が連接性を阻害するかというと、「接続詞・接続語がないこと、指示語が多用されていること、因果関係が明示されていないこと」などが原因とされています。具体的な文章で考えてみましょう。

連接性が高い文章の例：昨日は雨が降っていた。そのため、私たちは予定していたBBQを中止した。代わりに、近くのカフェで昼食をとることにした。店内は静かで、ゆっくり話すことができた。

連接性が低い文章の例：昨日は雨だった。BBQはしなかった。カフェに行った。静かだった。ゆっくり話した。

何の話かということはおいておくとして、悪い例では、接続語がなく、文と文の関係が明確ではないですよね。そもそもBBQをしてからカフェに行く予定だったのか、BBQができなかったからカフェに行ったのかわからないです。なんなら、

低い例その2：昨日は雨だった。カフェに行った。BBQはしなかった。ゆっくり話した。静かだった。

のように、順番を変えてしまってもそれなりに読めてしまいます。これも「つながりが不明瞭」なためです。なお、「低い例その2」という見出しも「連接性が低い」書き方になっています。話の流れ(文脈)からすれば「(連接性の)低い(文章の)例その2」だとわかるとは思います。しかし、そうした省略が文章の読み手に「足りない情報を補いながら読まないといけない」という負担をかけるわけで、それが「わかりづらい文章」だとさえられるもととなるわけですね。

みなさんのレポートに直接的に関わってくるのは2つめのコヒアランスである「連接性」かもしれません。接続詞を使って文章の関係をはっきりさせたり、「これ、それ、あれ」といった指示代名詞を使う場合には何を指しているのかがわかるようになっているかを気にしたり、あるいは指示代名詞を使って省略せずにきちんと書いたりすることで、誰の目からみてもわかりやすい文章を目指してください。そして、こうした書き方のコツをつかむことで、課題を目の前にして「何をどうしたら」ということが少なくなったり、取り組むことの意味が見出しやすくなったりすればなおよしです。みなさんからのレポート提出を楽しみにお待ちしています。

[文献]

深谷優子 1999 局所的な連接性を修正した歴史テキストが学習に及ぼす影響 教育心理学研究第47巻第1号 p. 78-86

山崎喜比古・戸ヶ里泰文・坂野純子 2019 ストレス対処力SOC—健康を生成し健康に生きる力とその応用 有信堂

